

令和4年度青森県農薬管理指導士認定期間更新自主研修 問題の解答

次の各問の下段の①～③の内 **赤字** の部分が解答となります。

問1 農薬管理指導士は、専門的な知識を持つ農薬取扱者として（ ）から認定された者であり、その役割は農薬適正使用の推進である。

①市町村長 ②県の地域県民局長 **③知事**

問2 農薬管理指導士の認定期間は3年だが、その間に住所等の認定内容に変更があった場合、県の（ ）に連絡をする。重要なお知らせが届かなくなります。

①食の安全・安心推進課 ②農林水産政策課 ③病虫害防除所

問3 農薬の安全性に係る法規制には、農薬取締法などがあるが、農薬残留基準については（ ）で設定されており、基準値を超えて残留する食品の販売、輸入が禁止されている。

①食品衛生法 ②農薬取締法 ③食品安全基本法

問4 農薬取締法では、農作物等を害する病虫害の防除に用いられる薬剤などが「農薬」として定義されている。（ ）も農薬として取り扱われる。

①衛生害虫の防除薬剤 **②農薬用の展着剤** ③非農耕地用除草剤

問5 残留農薬基準の設定にあたっては、許容一日摂取量（ADI）などが基本となっているが、ADIはヒトが毎日（ ）にわたって摂取しても健康への悪影響がないとされる量である。

①一生涯 ②一年 ③一ヶ月

問6 農薬使用者には農薬を使用した後に記帳し、保管することは（ ）されている。これにより、有効成分別の使用回数の確認や使用基準を守っていることの証明にもなる。

①自由と **②義務付け** ③望ましいと

問7 住宅周辺で農薬を使用する場合、事前に（ ）に対して、農薬使用の目的、散布日時、使用農薬の種類及び農薬使用者等の連絡先を十分な時間的余裕を持って幅広く周知する。

①周辺住民 ②県の関係機関 ③報道機関

問8 薬剤抵抗性・耐性の発達を避けるためには、異なる作用機構の薬剤を順番に散布するローテーション防除が重要で、（ ）で作用機構のグループを確認する。

①商品名 **②RACコード** ③成分名

問9 クロロピクリンの土壌処理は、揮散ガスによる危害を防止するため朝夕の気温の低い時間帯に行い、処理後は直ちに（ ）する。

①ポリエチレンシートで被覆 ②遠方に避難 ③灌水

問10 農薬取締法では、（ ）、虚偽の宣伝があった場合、3年以下の懲役もしくは100万円（法人は1億円）の罰金が科せられる。

①無登録農薬の販売 ②立ち入り検査の拒否 ③農薬販売変更届の未提出